同友会ニュース 134
緑陽
2017年1月　発行

一般財団法人同友会
藤沢湘南台病院
藤沢ケアセンター
藤沢訪問看護ステーション
居宅介護支援センター
長後いきいきサポートセンター
ライフメディカルフィットネス
ライフメディカル健診プラザ

【一般財団法人同友会　法人目標】

①24時間、迅速急性期医療と専門性を持つ医療の充実
②医療、保健、福祉における包括サービスの提供
③地域コミュニティ形成を目指す健康増進の推進
④すべての職種に対する医療者としての教育、研修の場の確立

【藤沢湘南台病院　病院理念】

①信頼とやすらぎのある医療
②専門性と倫理観のある医療
③地域に貢献する医療

私たち、藤沢湘南台病院 地域包括ケア病棟で働いています

地域包括ケア病棟とは

急性期治療を終えた患者さまが在宅や介護施設への復帰支援に向けた継続的な医療や看護・リハビリを行う病棟として、２０１４年の診療報酬改定時において新設された病棟です。

当院では昨年8月に病院1号館3階の60床の急性期病床のうち、30床を地域包括ケア病棟（3階東病棟）として開設しました。この病棟では医療やリハビリを受けることができる入院日数は、最長60日とされています。また、退院後の在宅復帰率を70％以上とする要件があり（在宅復帰先として、自宅、居宅系介護施設、在宅強化型療養病棟、在宅強化型老人保健施設などが含まれます）、11月現在98％以上を維持しています。

私たちは

リハビリに時間のかかる高齢の方や、在宅での療養に不安があり、もう少し入院治療を行うことで在宅復帰が可能な患者さまに、安心して退院できるよう支援を行っています。

急性期病棟から転棟後、介護施設や在宅復帰を目的としたリハビリのため、病状やけがの具合から自宅で生活ができるまでの目標を立て、それに合わせて計画を立案しています。急性期で受け持ちした医師が主治医として継続して関わり、引き続き治療ができるため、安心して医療が受けることができます。

一人ひとりの患者さまがどのような在宅復帰を目指しているか、医療スタッフ（医師・看護師・退院調整看護師・がん看護専門看護師・社会福祉士・薬剤師・管理栄養士等）とともに定期的に合同カンファレンスを開催し情報の共有を図っています。そして患者さまが【自分でできる】ことを大切にしつつ、日常生活動作の維持・拡大に向けて在宅復帰後の生活を見据えたリハビリに取り組めるよう努めています。

最後になりますが

地域包括ケア病棟を利用して在宅復帰や一時的な入院が必要と判断される患者さまのために、在宅や他の急性期病院からの転院を受け入れ、そして地域との連携を深め業務に邁進していきたいと思います。

「2017年を迎えて」

一般財団法人同友会 理事長
藤沢湘南台病院 総院長
鈴木紳一郎

明けましておめでとうございます。地域の皆さまに於かれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は

4月中旬に震度7の地震が熊本で発生しました。余震が続くなかでの生活再建、また10月には阿蘇山が噴火したこともあり、被災地の方々の不安が非常に大きいものだと感じております。夏には、リオ五輪が開催され、日本人の活躍で大いに盛り上がりをみせました。過去最多のメダルを獲得し、2020年東京五輪への期待が持てる結果でした。

世界の情勢に目を向けると、6月にイギリスがEUからの離脱、また11月の米大統領選挙の結果は政治経験のないトランプ氏の当選と長い歴史の中でも節目の年になったと考えております。

国内では2014年4月に消費税率が5%から8%に引き上げられ、消費者や医療業界は負担に感じていましたが、昨年5月に10%への引き上げが2017年10月から2019年4月への延期が決定しています。延期の決定数ヶ月前には日銀のマイナス金利の導入が開始されたことや世界の情勢を鑑みても、私たちが景気回復を実感できるのはまだ先のことと思われます。

昨年の同友会は

従前から計画をしていました「ライフメディカル健診プラザ」を長後駅東口に2月に開設致しました。この施設は、病院内にあった健康管理センターと婦人科外来を移転し、1、2階は健診センターとして人間ドック等の健康診断を行い、3階はウィメンズクリニックとして婦人科、乳腺外科、肛門外科を標榜し、女性スタッフによる女性の診療を行っています。またライフメディカル健診プラザは病院併設施設「ライフメディカルフィットネス」と連携を図り健診と運動を組み合わせることで、病気の予防、健康増進につなげ、地域住民の皆さまの健康寿命を延ばすことを目的に開設しています。両施設を有機的にご利用していただければと思います。

先に述べました熊本地震についてですが、当院からは神奈川県医師会の要請に基づき、5月6日から12日にかけて神奈川JMAT第2班（藤沢市医師会第1班）及び同第3班（同会第2班）の2チーム計8名を現地へ派遣し、避難所の巡回、診察や現場本部の統括業務、救護活動収束に向けたコーディネートなどを行いました。この災害派遣活動では、現地が混乱していることもあり災害現地の情報をいかに早く正確に把握することや命令系統がいくつもあり他の災害医療支援チームと連携した効率的な医療資源の投入が難しかった点がありました。いずれ来るであろう神奈川県の地震災害に備えて、JMAT派遣の経験を活かし迅速に対応できる体制を築く必要性を強く感じました。

また病院1号館3階東側の改修工事を行い、新たに「地域包括ケア病棟」を開棟しました。現在、国の政策では地域包括ケアシステムにおいて在宅医療への移行が図られるとともに、藤沢地域の高齢化も一段と進んでいる状況です。

そのような状況の中、当院にできることは急性期の疾病患者を受け入れ、治療し、安心して在宅医療へと移行できる体制を構築していくことだと考え、病棟の再編を決断しました。新たな病棟は昨年8月から試験的な運用を始め、12月から正式に運用を開始しました。院内の急性期病棟からの患者さまを受け入れることから始めておりますが、他院の急性期病棟からの受入れ及び在宅からの一時的な入院に対応できるように致します。

今年の同友会は

院内にあった健康管理センターが長後駅前東口へ移転したため、3月までにその跡地にリハビリテーション室の移転を行います。移転に併せ病院1号館と2号館の間の渡り廊下のスロープの拡幅と勾配を緩やかにする工事も行っています。車イスで利用される方や患者さまの通行のご不便を解消するためです。そして、リハビリテーション室の移転完了後は、来年3月を目途にICU開設に向けた準備を進めて行きます。

また先ほど述べましたが、「ライフメディカル健診プラザ」と「ライフメディカルフィットネス」の連携強化を図り地域の皆さまの健康増進を推し進めます。さらには、公開講座や健康講座の開催等を通じて、皆さまに身近に感じて頂けるよう取り組んで参ります。

最後になりますが

地域医療の発展に職員一丸となり取り組んでまいりますので、引き続き皆さまのご支援を宜しくお願い致します。今年1年が皆さまにとって良き年になりますよう祈念致しまして、挨拶とさせて頂きます。

「明けましておめでとうございます」

藤沢湘南台病院 院長
山本　裕司

昨年は4月14日の熊本の大震災で日本中が暗くなりかけた時、リオ・オリンピックで日本の若者が大活躍して日本中が大いに盛り上がり、東京オリンピックへの期待が掛かる中、会場の問題で議論が紛糾し、工事費など未だに結論が出ない状況です。世界に目を向けると英国のEU離脱、フィリピンのドゥテルテ大統領当選、アメリカではトランプ氏の大統領当選、さらに韓国大統領の弾劾などポピュリズムの台頭により予期しない出来事が世界で起きました。

日本でも今後何が起こるか分からない時代になっているように思います。しかし、確実なことは我が国では2025年に向けて着実に高齢化が進んでいると言うことです。医療・介護福祉にかかる費用の高騰が見られる中、来年度予算は削減されようとしています。社会保障費が目的税としての消費税で賄っている以上、消費税が上がらない限り必要な社会保障費は賄えないことになります。

地域医療構想について

医療費の高騰を抑制する施策の一つとして在宅医療への推進があげられています。療養型の病床はなるべく在宅へシフトさせるため、一昨年から地域医療構想が立ち上がりました。神奈川県地域医療構想では、湘南東部地域（藤沢・茅ヶ崎・寒川）の急性期・慢性期の患者とも横須賀・三浦地域への流出が見られるのが現状です。

地域で発生した疾患は地域で完結することを目指し、急性期のみならず慢性期の患者さまにも多職種と連携することにより地域で完結することが理想です。

藤沢湘南台病院は藤沢市北部の急性期を担う中核的病院で、地域完結型の医療を目指し、「断らない医療」を心がけて、地域医療に貢献する心構えである一方、同友会は急性期のみならず慢性期や健診事業など7事業を運営しています。地域の医療、介護福祉を担う法人としては各事業所の連携が大事と感じているところです。

「自立型」から「相互依存型」を目指す

「七つの習慣」という本によれば、人間の成長過程には三つの過程があると書かれています。すなわち、「依存型」、「自立型」、「相互依存型」であり、各過程での主語は〝あなた〟、〝わたし〟、〝私たち〟となるようです。

「依存型」では何かに失敗した場合、〝パパが手伝ってくれなかったからだ〟とか〝ママのせいだ〟とか子供がよく言うセリフです。「自立型」では〝これは私の手柄だ〟、〝これは私の問題ではない、私とは関係ない〟と自分中心の考え方になりがちとなります。組織の壁とか、個人の壁ができて全体的な協力体制ができにくくなってきます。最終的な段階である「相互依存型」は主語が〝わたしたち〟となる。〝会社の営業成績が悪いのは我々の努力が足りないので私たちで頑張ってみよう〟など〝私たち〟の視点で物事を考えると次の協力の行動が出てきます。同友会をこれに当てはめると「自立型」が多いような気がします。成熟した組織になるには皆が「相互依存型」を意識して行動することが必要と考えます。今年からはぜひ会議ではこうしたことを忘れないで〝We〟すなわち〝われわれ〟を主語に会話を進めていきたいものです。

今年の大きな事業は

・リハビリテーション科の移転

1号館のリハビリテーションの部門をICUに改修するためにどうしてもリハビリテーション科の移転（病院2号館健康管理センター跡）が必要となってきます。リハ科スタッフや患者さまには多少不便をおかけすると思いますが、協力のほど宜しくお願い致します。

・緩和ケア病棟としての届け出

昨年まで7対1看護体制を確保するために緩和ケア病棟を一般病棟として届けていましたが、4月からの入職予定者や看護必要度など加味すると緩和ケア病棟として届け出ることが可能と判断しました。

・ICU移転に向けた準備

来年3月にはICU8床として開設予定です。ICU専門医の確保、看護師のICU研修等ハードおよびソフト面の準備を進めていく予定です。

・同友会7事業の連携強化

前述したように地域医療にどのように貢献するかという視点で、同友会全体で連携強化に鈴木理事長と共に取り組んでいきます。

・2号館改築を踏まえた経営基盤の強化

病院2号館の老朽化が進んできています。一応の目安として、5年先をめどに改築工事に向けて病院のみならず法人全体の経営基盤を強化していきます。

以上の事業の達成には職員、さらには地域の皆さまのご理解とご協力が欠かせません。昨年同様、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。皆さまにとって、今年も良き年であることを祈念致しまして、年頭の挨拶とさせて頂きます。

介護老人保健施設「藤沢ケアセンター」ご案内

在宅復帰・在宅療養支援機能加算の算定施設です

平成28年８月から在宅復帰・在宅療養支援機能加算算定の老健として認可されました。

平成26年度医療報酬改定で「自宅等退院患者割合」、「在宅復帰率」が導入されています。
当施設は、「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定している老健の為、「在宅」の扱いとなります（７：１病棟と地域包括ケア病棟に限ります）。

待機期間がなく、ご案内できることが増えています

ベッドの回転率が５％以上の為、以前より、お待たせせずに、入所のご案内ができるようになりました。

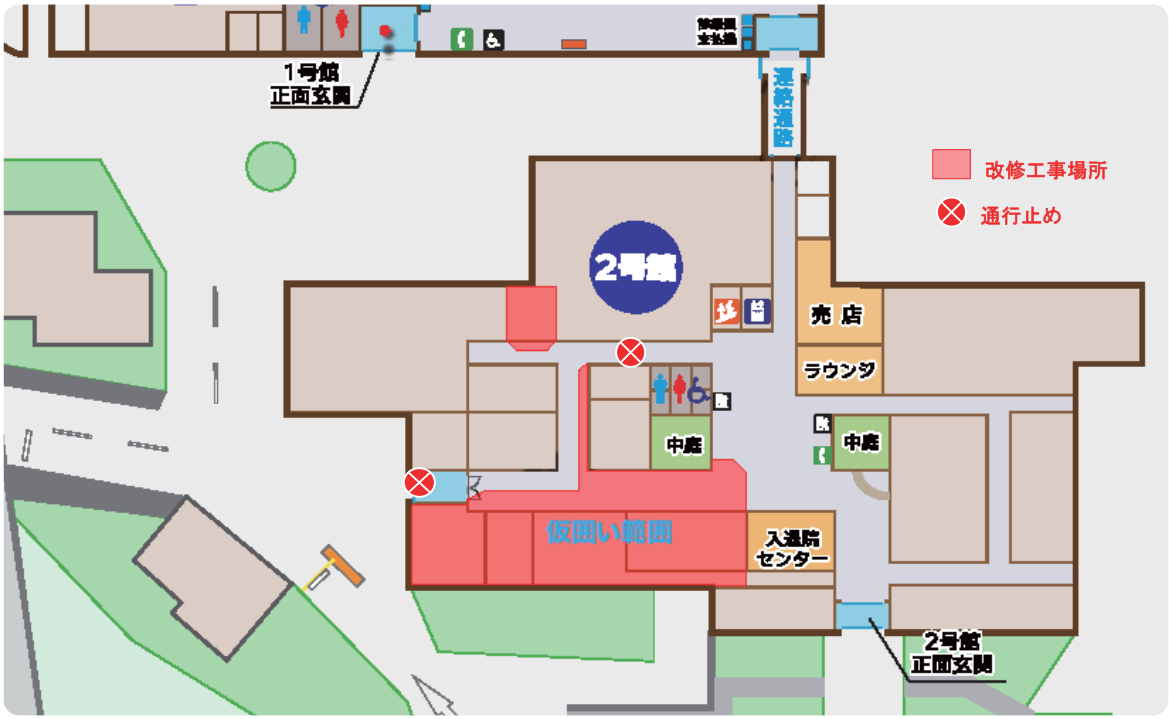
入所のご相談後、ご本人の面談の為に、病院を訪問させていただき、病状の確認と、ご本人の意向をお聞かせいただきます。

入所のご相談は相談員（山口・小原）までお気軽にご連絡下さい！
電話：0466-43-8551（月～土　9：00～17：00）

２号館工事のお知らせ

病院１号館リハビリテーション室を２号館（旧健康管理センター）へ移設するため改修工事を行います。工事期間中は、２号館の待合ホールの一部が囲われ、また通行止めの個所もありご不便をおかけ致します。

工事期間：平成29年１月５日（木）～平成29年２月20日（月）予定



発行者：一般財団法人同友会（藤沢湘南台病院）〒252-0802 藤沢市高倉2345　TEL：0466-44-1451 URL：http://www.fj-shonandai.jp/